

東北学院大学南津島民俗調査プロジェクト報告書

1. はじめに

本稿では、本年度の東北学院大学南津島民俗調査プロジェクトの成果と、次年度に向けての課題とを記述してゆく。

本稿の構成は以下の通りである。①活動の主旨、②今年度の活動と成果、③次年度に向けての活動である。

1. 1. メンバーと私たちの強み

昨年と同様になるが、私たちは宮城県仙台市にある、東北学院大学に所属する学生団体である。私たちには、次の2つの強みがある。

1つ目は、専門性を活かした貢献ができることである。プロジェクトのメンバーは文学部歴史学科の学生たちであり、とくにコア・メンバーは専門分野として地域文化を研究対象とする民俗学を学んでいる。地域文化についての高い専門性を持つからこそ、地域の人びとが大切にしてくられた地域文化についての深い理解が可能になり、そのことをふまえた地域の復興を展望できると考える。

2つ目は、長期の貢献が可能になることである。メンバーは東北各地の出身者が多数を占める。また福島県出身者も少なくない。私たちの多くが東北各地での就職を希望している。そのため、地域との交流が学生時代に完結してしまうのではなく、将来的にも交流を続けていくなど、長期にわたる調査・交流活動が可能であると考えている。

このような強みを活かして、福島県でも、とりわけ東日本大震災で被災した地域の「集落復興支援事業」に取り組もうと考え、本事業に応募し、昨年度より、この活動に取り組んでいる。

1. 2. 南津島地区との出会いと活動の狙い

本事業を通じて、双葉郡浪江町南津島地区のみなさんとの交流活動を実施することとなった。南津島は現在もお、帰還困難区域に指定されている。そのため、かつて地区から避難した人びとは、集落を離れバラバラに住まうことを余儀なくされている。かつてのような、土地に根ざした近隣関係にもとづく集落活動が困難である状況が理解できた。

また私たちは南津島にある優れた芸能について知った。それは県指定無形民俗文化財である田植踊り／神楽七芸などである。現在も南津島郷土芸術保存会が、優れた芸能を継承

している。しかし避難先がバラバラになってしまったことにより、震災後も人びとの心の拠り所となっている民俗芸能でさえも、継続が困難な状況が現出している。

こうした状況を見聞きするにつけ、私たちの強みを活かした集落支援ができるのではないかと思うようになった。すなわち、地域文化をサポートする活動を通して、地域をエンパワーメントできるのではないかということだ。そのためにまず地域を調査し、現在まで育まれてきた歴史・伝統を担おうとする南津島郷土芸術保存会への支援活動を行ない、ささやかながら、文化を受け継いでいく活動に協力したいと考えている。

住民の大部分が土地を離れて生活せざるを得ないため、いま津島地区の地域文化は、いわば「風前の灯火」となっているという。しかし、受け継がれてきた伝統の尊さ、重要性は変わらない。地域の住民の思いや考えをくみ取り、それらをつぎの世代にいかにつないでいくかを、郷土芸術保存会とともに考えていくことは、私たち民俗学を学ぶ歴史学科生の使命であると考えている。

また、私たちがサポーターとなることで、地域文化の認知度を高める効果も期待している。眠っている地域文化を復興させ、周知させることでまた次世代の担い手の発掘をすることができるのではないか。連綿と受け渡されてきたものを、また私たちが支援し、その先に届ける。その仕事に誇りと責任をもって取り組んでみたい。

2. 今年度の活動内容

以上のような状況をふまえて、今年度は民俗芸能の継承を軸に活動してゆくこととした。というのも、現状でもすでに、保存会メンバーのみで田植踊りを披露することが困難になりつつあることが確認できたからである。私たちがサポートできる体制を構築してゆくことで、民俗芸能の継承のみならず、集落の持続へも貢献できると判断したからである。

2. 1. 主な活動内容一覧

昨年は、コロナ禍の影響により保存会自体の活動頻度が低下していたが、今年度はコロナによる規制緩和や3月31日に津島地区の帰還困難区域が一部解除されたことにより、保存会にイベント出演の依頼が殺到した。それに伴い学生側の活動も活性化し、田植踊りだけではなく神楽・岡崎という演目の継承支援も始まった。

今年度は、保存会の方と共に一部解除された津島地区で田植踊りを披露したり、保存会会長から学生だけで踊る機会をいただいたりなど大変貴重な経験になった。

以上を踏まえて、今年の主な活動を次のページに整理し、表1のようにまとめた。

表1：今年度の活動概要

年月日	会場	参加者	主な活動内容
2023年7月16日 (日)	二本松男女共生センター	17人	「常磐線舞台芸術祭 2023」に向けた保存会の方々と合同練習会
2023年7月31日 (月)	小高生涯学習センター(浮舟文化会館)	23人	「常磐線舞台芸術祭 2023」に、保存会の方々と共に出演し、田植踊を披露した。
2023年8月25日 (金)~27日(日)	津島活性化センター	22人	保存会の方々と学生の合同練習会が行なわれた。 「つしま de シネマ」では保存会2名と学生1名が昔の津島を語るトークショーに出演した。
2023年10月15日 (日)	二本松市市民交流センター	6人	「標葉祭り」に向けた保存会の方々と合同練習会
2023年10月22日 (日)	津島中学校	8人	「標葉祭り」では、保存会の方々と共に13年ぶりの現地披露を行なった。
2023年11月5日 (日)	津島活性化センター	12人	13年ぶりの「つしま肉祭り」で、保存会の方々と共に踊りを披露した。
2023年12月2日 (土)~3日(日)	秋保市民センター 秋保・里センター	18人	湯元の田植踊保存会と交流会が行なわれた。
2023年12月19日 (火)	二本松市市民交流センター	3人	「田楽・民俗芸能を継承するふくしまの会」では、福島県内の各芸能保存会による座談会が行なわれた。
2024年12月20日 (水)~21日(木)	二本松市市民交流センター	3人	田植踊に次ぎ、神楽と岡崎を継承した学生の練習会が行なわれた。
2024年2月10日 (土)	福島県庁	2人	学生2名が福島県庁を訪問し、知事に「大学生と集落の協働による地域活性化事業」による活動成果を報告した。
2024年2月17日 (土)	いこいの村浪江 グリーンパレス	23人 4人	浪江町請戸地区のフィールドワークの後、請戸田植踊の再興に関わった方々の講義を受けた。 うち学生4名は、福島県地域振興課の成果報告会に参加し、活動の内容を報告した。
2024年2月18日 (日)	苕野神社	23人	13年ぶりに現地で行われた「請戸安波祭」の見学を行なった。

2024年2月25日 (日)	二本松市市民交流センター	3人	二本松 神楽練習
2024年3月10日 (日)	二本松市市民交流センター		「勾当台公園の食べて応援しよう!IN 仙台」に向けた保存会の方々との合同練習会が行なわれた。
2024年3月16日 (日)	早稲田大学	2人	民俗芸能学会
2024年3月17日 (日)	勾当台公園	12人	「勾当台公園の食べて応援しよう!IN 仙台」

2. 2. 具体的な活動内容

<常磐線舞台芸術祭に向けた練習>

昨年7月31日に開催される常磐線舞台芸術祭において同月16日、二本松市男女共生センターにて保存会と学生の合同練習会が行われた。今回のイベントは、学生のみで出演するため10時30分~15時まで踊り手は保存会の方に指導を受けた。また、当日衣装の着付けを担当する学生は別室で着付けの確認などを行った。



写真1：学生と保存会の打ち合わせの様子



写真2：練習の風景

<常磐線舞台芸術祭>

「常磐線舞台芸術祭」は福島県を中心とした常磐線沿線で繰り広げられる舞台芸術の祭典である。今回のテーマは「つなぐ」。震災が残した爪痕は、大小そして内外を問わず様々な分裂を生み、未だその影を落としている。舞台芸術の力を持ってその分裂を少しでも「つなぎ」それぞれが手繰り寄せ、地球のもつ本来の美しさや魅力を再発見し体感してもらうことを目的としているイベントである。

当日は、保存会の助力を得ながら金子祥之准教授や学生ら計13名だけで踊り、無事にその日を終わることができた。



写真3：踊っている様子



写真4：舞台裏の様子

<夏合宿>

夏合宿は、8月25～27日の期間に津島の活性化センターで保存会と学生の合同練習会が実施された。同年3月31日に津島の帰還困難区域の一部解除に伴い、13年ぶりに保存会の方は津島で田植踊りの練習をすることができた。学生らもこの時が初めて津島に訪れた日であり、田植踊りの他に神楽七芸である神楽・岡崎の演目の継承支援活動も始まった。26日には、津島小学校で行われた「つしま de シネマ」にも参加し、昔の津島について保存会2名と学生1名がトークショーに出演した。「つしま de シネマ」では、夜に津島の思い出の写真で作成されたムービーと映画「BLUE GIANT」が放映された。この時、現場には多くの地元の方が鑑賞しに訪れていた。



写真5：神楽の前被りを習う



写真6：田植踊りを練習する様子



写真 7：岡崎を習う様子



写真 8：神楽の後被りを習う様子

<標葉祭り・肉祭りに向けた練習>

昨年 10 月 15 日、一部解除された津島で開催される「標葉祭り」と「肉祭り」におけた保存会と学生の合同練習会が開かれた。場所は二本松市市民交流センターで、田植踊りと神楽・岡崎の練習が行われた。

練習会に参加した学生は、両イベントに初出演する人が中心に集められ保存会の方から指導を受けた。学生の中には、新しい役に挑戦する人もおり、皆が緊張感をもって取り組むことができた。



写真：9 田植え踊りの練習の様子



写真 10：神楽・岡崎の練習の様子

<標葉祭り>

10 月 22 日、津島中学校で保存会と学生が共同で出演。この日は、津島で田植踊りを 13 年ぶりに一般人の前で披露した。学生は、踊り以外にも津島に関するパネル展示や南津島の田植踊りを体験できるブースを出展し、地元の方々と交流することができた。

パネルは、津島に関する先行研究を整理し、保存会会長のお話をもとに学生中心で作成をした。



写真 11：パネル作成



写真 12：パネルを見学する方



写真 13：体験している子供の様子



写真 14：踊っている様子

<肉祭り>

11月5日、「さあいくべ！つしま肉祭り」が津島の活性化センターで開催された。保存会と学生は田植踊りと神楽・岡崎を披露した。今回は、踊り手だけではなくボランティアスタッフとしても学生が参加している。

この肉祭りは、震災以前から行われていたイベントであり震災後は中止されていた。そのため、このイベントが津島で行われるのはじつに13年ぶりである。踊りを披露する際には、住民の方が踊りを観るために客席に集まり久しぶりの田植踊りと神楽・岡崎の演目を久しぶりに見て楽しんでいた。



写真 13：ボランティアする学生の様子



写真 14：田植踊りの様子



写真 15：学生と神楽・岡崎

以上のように本年度は、多岐にわたる活動を実施してきた。そのなかから、津島地区との関係が深いイベントを中心に記述した。この他にも、12月に秋保の田植踊保存会のみなさまと実施した「芸能がつむぐ地域の未来」など特色ある活動を実施することができた。ご協力いただいたみなさまに心より感謝申し上げます。

3. 次年度へ向けて

次年度へ向け、これまで実施してきた内容をさらに深めていきたい。

1つは、民俗芸能の継承活動の継続的な実施である。田植踊りに加えて、今年度は神楽の習得にも取り組んだ。保存会のみなさまのように演じることができなくとも、定期的に練習をかさねて、私たちのレベルもより高いものにしていきたい。

続いて、南津島集落の記録作成を実行していく。どうしても踊りの習得や練習に時間を

割かざるをえず、記録作成に手が回らなかった現状がある、次年度こそは、これまで行なってきた聞き取り調査をさらに深め、記録作成に力をいれてきたい。

年月日	タイトル	メディア	URL
2023年 8月1日	心のレール 文 化でつなぐ 常 磐線舞台芸術祭	福島民報	https://www.minpo.jp/news/moredetail/20230801109232
2023年 8月27日	伝統の田植踊、 浪江に継承 津 島で15年半ぶ り復活へ	福島民友 新聞	https://www.minyu-net.com/news/sinsai/shinsai13/news/FM20230827-801175.php
2023年 9月1日	津島で南津島の 田植踊り練習会 が開かれました	一般社会 法人 まちづく りなみえ	
2023年 10月23日	福島第一原発事 故 浪江で田植 踊、震災後初披 露 大学生が参 加	毎日新聞 東京新聞	https://mainichi.jp/articles/20231023/ddm/041/040/088000c
2023年 10月23日	福島で13年ぶ りに田植踊 福 島県浪江町の南 津島郷土芸術保 存会 学生と継 続へ	福島民報	https://www.minpo.jp/news/moredetail/20231023111621
2023年 11月12日	故郷で踊りたい …被災地の「田 植踊り」13年 ぶり夢かなう 学生たちが担い 手に	TUF テレビユ ー	https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/827236